

# “但馬牛”今昔物語

兵庫県立但馬牧場公園 「但馬牛博物館」

館長 渡邊 大直

## 第9回「洋種交配③」

今年 98 回目を数える兵庫県畜産共進会。その第 1 回目は、松岡大臣訓示事件があった 1909 年に、現養父市で開かれた第 1 回産牛共進会です。ブラウンスイスによって改良された筈の牛を抑えて、在来但馬牛の「中辻」がチャンピオンとなり、これを契機にブラウンブームは終焉したとされています。

当時農商務省の技師で、望月瀧蔵という人がいました。この人は大臣訓示の起案者で、第 1 回産牛共進会の審査長に予定されていましたが、この件で兵庫県に拒否され、武藤信平氏が審査長になりました。望月氏の回顧録『官界三十有三年』には、「ブラウンスイス種は但馬牛の改良原種として適当でない」と但馬で何度か意見を述べましたが、聞き入れられなかったとあります。ところが、この意見を述べた時期が定かではなく、ブラウンスイス導入以前に望月氏の意見を記した資料はみあたりません。『但馬牛物語』には、ブラウンスイス導入を主導した北村元吉氏が、1917 年に望月氏に謝罪した記事があります。しかし、これは審査長拒否に対するもので、望月氏の意見を無視したことに対する謝罪ではありません。

ブラウンスイス導入後には、望月氏と同様の意見はいくつかあります。

小出満二氏は、ブラウンブームが始まろうとする 1906 年に発表した『但馬牛産論』で、ブラウンスイスは原産地のみならずヨーロッパ諸国で改良効果あったとされる牛ですが、果たして日本の地に適し、但馬牛の改良資源となりうるか疑問です。数年かけてでも研究した後入れるべきで、早計だったのではないかとしています。

“よし蔓”の創始者伊賀平内左衛門氏も同意見でした。1905 年に県の農事巡回教師として城崎郡に赴任した時、既に城崎郡にはブラウンスイス種雄牛が配置されていましたが、但馬牛は今まで科学的な改良をせず、無策放任で来たのに優れた美点を残しています。しかし、県は改良効果の検証をしないまま洋種交配を進めています。洋種の改良効果を確認した上で、但馬牛に不足しているところを洋種で改良するとしても遅くないと主張し、ブラウンスイス 75%、25%雑種子牛の調査をし、その答えが出るまで雑種生産を奨励せず、雑種が増えてきた美方郡からの導入も抑制したといます。県の方針に従わないので、再三圧力がありましたが、伊賀氏は主張を曲げず、当時県の畜産行政を所管していた農務課の高橋得太郎畜産主任も遂に、「城崎郡だけは伊賀の望むとおりにさせてみよう。」と折れたといます。

これらは、国も兵庫県もブラウンスイスの改良効果を事前に評価せずに改良資源として使ったことを物語っていますが、そのことに対して兵庫県は疑問を感じていなかったようです。一方、但馬における雑種生産に危惧を持つ望月氏が、農務省の牛改良を主導する立場になった結果、前々回冒頭に『国と地元の行き違い』と表現した状況が起こったと推測します。

ところで、前回表に示したように、ブラウンスイスを導入して数年たった 1907 年から突然雑種子牛の生産頭数が増え、1910 年まで“ブラウンブーム”が興りました。

1905 年 9 月に日露戦争が終わり、帰還兵が兵糧の“牛肉の大和煮缶詰”を土産に持ち帰ったことから庶民に牛肉消費が広がったと言われ、戦後の好景気で牛肉需要がふくらんだのが背景にあるようです。そして、1900 年に始まった中国連合畜産共進会は、1906 年の第 3 回まで雑種でなければ上位入賞できず、美方郡畜産組合の 2 歳雄牛の価格を記した資料にも、「和種（但馬牛）体高 3 尺 9 寸～4 尺 2 寸上等のもの 100 円内外、1 回雑種体高 4 尺以上 200～300 円」とあることから、雑種は発育、増体性に優れ、共進会や市場の評価が高まってブームに発展したようです。

しかし、雑種子牛が増えだした 1907 年には景気が後退し始め、不況に転じ、雑種子牛の評価に陰りが見え始めました。この辺りが「第 1 回産牛共進会事件が無くとも早晩雑種子牛の評価は落ち、同じ結果になっただろう」と言われる所以でもあります。

『但馬牛物語』には、“ブラウン混血の功罪”として、発育、増体性、泌乳能力、飼料利用性が向上し、体型的には背線が平直となり、尻、腿の形状が改善された反面、毛色、毛質、角質、骨締まりが悪化し、肩付が緩く、胸垂、顎垂過大、腰角粗大となって、産肉能力は枝肉歩留りが落ち、肉質も悪くなり、役用能力

も低下したと書かれています。

このように洋種交配は、事前評価が不十分な改良方針の決定や市場評価に左右された無計画な交配種雄牛の選択はとんでもないことにつながる、という教訓を与えてくれた事件でもあるようです。

以後兵庫県では、洋種を排除し、在来の但馬牛に特化する方向で血統の整理が始まり、“但馬牛の閉鎖育種”が県の国是となっていきます。